# 松江の観光客を対象にした目的地や交通行動の変更可能性調査

松江工業高等専門学校　専攻科　学生会員　○益子　亜里紗
松江工業高等専門学校　環境・建設工学科　正会員　淺田　純作
松江市法吉地区まちづくり推進協議会バス利用促進委員会　正会員　田中　寛敬

## 1. はじめに

近年の急速な車社会の進展を背景として、公共施設や大型小売商業施設が郊外展開され都市機能が拡散し、交通混雑が起こっている。それに対する交通施策として、モビリティマネジメント（以下MMとする）[1)]が全国で実施されている。また最近では、MMの対象者を年代や性別などの属性で限定し、その属性に適した手法を用いることでMMの効果が上がることが知られており、島根県松江市においても事業所向けMMや高齢者向けMM[2)]等が実施されている。

島根県松江市は全国に 12 都市ある国際観光文化都市の 1 つであり、毎年多くの観光客が訪れている。しかし、観光客を対象にしたMMは現在まで行われていない。そこで本研究では、観光客に対し効率的な MM を行うための事前調査として、目的地や交通手段の変更といった交通行動の変容の可能性や変容を促す要因について調査・分析を行った。

## 2. 観光客ヒアリング調査概要

本研究では、島根県松江市内の松江城周辺・カラコロ工房周辺の観光客を対象にヒアリング調査を実施した。その概要は表-1 に示す通りである。主な質問項目は、観光客の属性、旅行費用、訪問回数、目的地に加え、調査当時の時間的余裕・精神的余裕・身体的余裕の 3 つの余裕について、などである。また、何らかの気に入った案内や情報を得られた場合の急な目的地変更が可能か否かについても質問した。

表-1 アンケート調査概要

| | |
|---|---|
| 調査日 | 平成24年<br>8月29日,9月1日 |
| 調査方法 | 対面ヒアリング形式<br>のアンケート |
| 調査場所 | 松江城周辺.<br>カラコロ工房周辺 |
| 調査対象 | 観光客 |
| 回答者数 | 160人 |

## 3. アンケートに基づく観光客の急な目的地変更の意向

旅行では目的地や食事の場所、交通手段などをきちんと計画し、計画通りに行動する人もいれば、旅先でたまたま手に取った案内を見て行動する人もいる。後者のタイプには、何らかの情報を与えて交通行動が変容する可能性がある。まず図-1 は、何らかの気に入った案内や情報が旅先で手に入ったときの目的地変更に関する意向の集計結果である。これをみると 7 割の観光客が“今回急な目的地変更ができるし、してみたい”と回答し、“今回変更はできないが次回はしたい”と回答した 1 割と合わせると 8 割以上の人が急な目的地変更をしたいと考えていることが分かる。次に、目的地変更に関する各意向を男女別に示した図-2 をみると、急な目的地変更したいと答えた人は女性の割合が高いことが分かる。

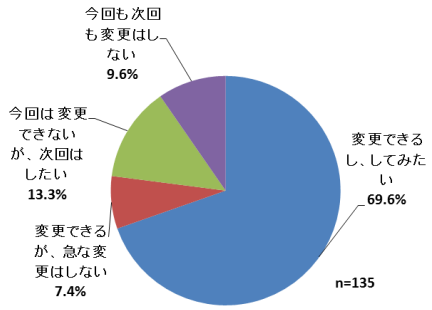


図-1 急な目的地変更

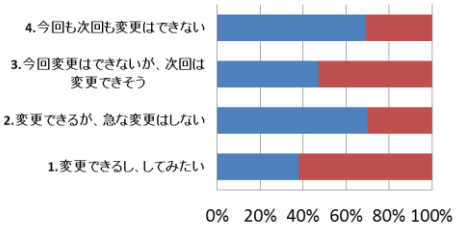


図-2 急な目的地変更（男女別）

## 4. 観光客の松江での時間と旅行の人物構成

図-3 は観光客の松江市内の滞在時間を表すグラフである。全体の 6 割以上の人が松江で一泊以上滞在することが分かる。

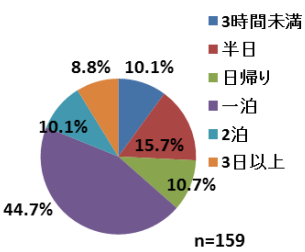


図-3 滞在時間

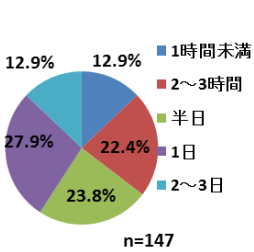


図-4 変更可能な時間

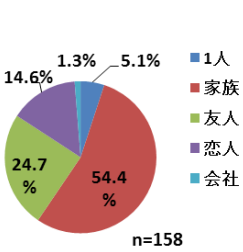


図-5 誰と一緒か

図-4 は観光客の自由時間や予定変更が可能な時間を表す。これより、約 6 割の観光客が松江での時間の余裕が半日以下であることが分かる。

図-5 は観光客の旅行の人員構成を表すグラフである。これより、観光客の半数が家族、4 分の 1 が友人と一緒に松江を訪れていることが分かる。

## 5. 数量化理論Ⅲ類を用いた分析と考察

本研究では個人属性による行動変容の違いを見るため、数量化理論Ⅲ類を用い分析を進めた。

まず図-6 に示すのが、“何らかの気に入った案内や情報が旅先で手に入ったら、急な目的地変更ができるかどうか”についてのカテゴリースコアである。一軸の相関係数は 0.512、二軸の相関係数は 0.466 という値になった。分析の結果、一軸については左側に「急な目的地変更したい」の回答が集まり右側に「急な目的地変更をしたくない」の回答が集まっている。このことから、一軸は急な目的地変更の意向を表すと推察できる。また、二軸については上側にいくほど「今回急な目的地変更はできない」の回答が集まり下側にいくほど「今回急な目的地変更できる」の回答が集まっている。そのため、二軸は旅の計画性を表すことが推察できる。

次に図-7～図-10 に示す性別・年代・地域などの個人属性によりサンプルスコアを作成した。これらをカテゴリースコアと照らし合わせることによって、観光客の属性別に旅先での急な目的地変更の意向の違いを読み取れる。図-7 の性別サンプルスコアでは女性の方が旅の予定を変更する時間があり、何らかの気に入った情報が手に入れば旅先で急な目的地変更をしたいと考えているという結果が出ている。図-8 の年代別サンプルスコアでは、40～70 代以上の人が自由な時間がありのんびり見て回りたいと考えていることが分かる。図-9 の地域別サンプルスコアでは北海道・東北地方についで関東地方の人が図の左下に位置し、自由な時間を持ち急な目的地変更の意向があると考察できる。また、島根県内・中国地方の人は右上に位置し、計画的に目的地を絞って観光をしていると考察できる。図-10 の交通手段別サンプルスコアからは、ツアーでの利用も含め公共交通で来た人が目的地変更の意向があることが分かる。

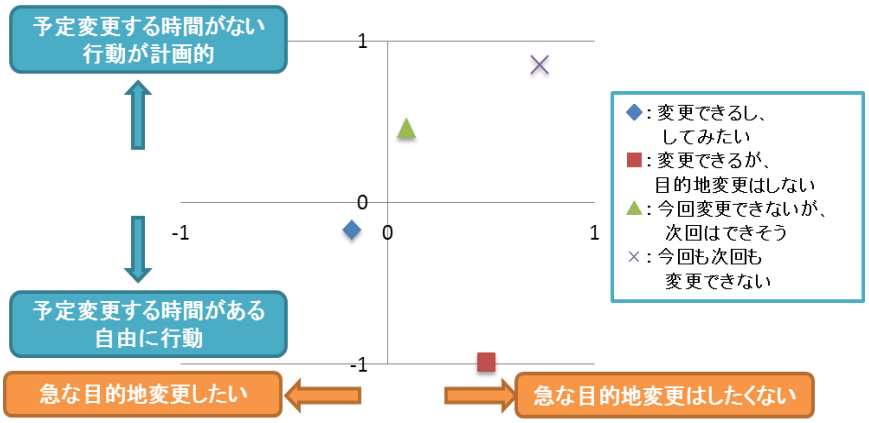


図-6 カテゴリースコア（急な目的地変更について）

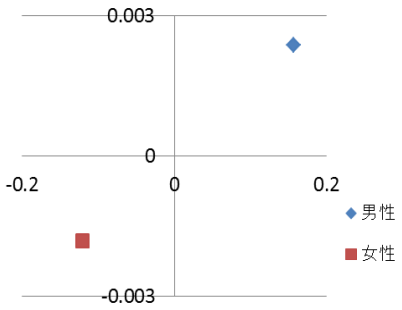


図-7 性別サンプルスコア

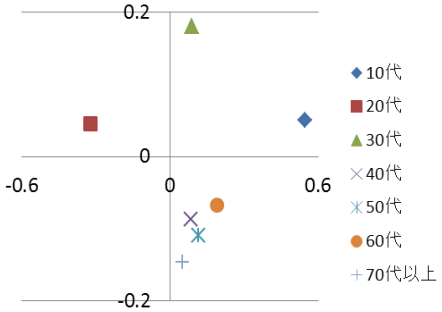


図-8 年代別サンプルスコア

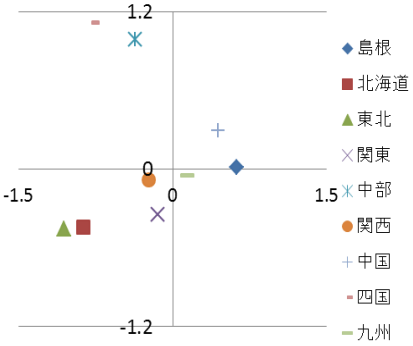


図-9 地域別サンプルスコア

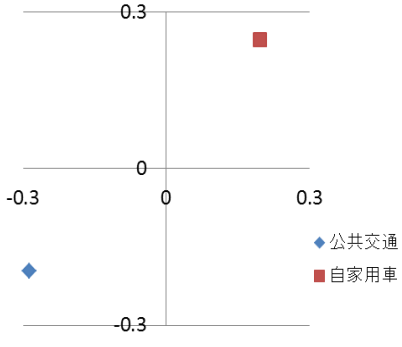


図-10 交通手段別サンプルスコア

## 6. まとめ

ヒアリング調査結果から、松江の観光客の 8 割以上が“何らかの気に入った案内や情報を得られると、急な目的地変更がしたい”と考えていることが分かった。また数量化理論Ⅲ類の交通手段別サンプルスコアを見ると、“急な目的地変更ができる”傾向にあるのは、松江に公共交通で来ている人である。このことから、公共交通で来た人に、公共交通を用いたまちあるき観光などの情報を提供することで、さらなる公共交通の利用促進が期待できる。さらに、「女性」「友人同士で来る人」「遠くから島根に来る人」が“急な目的地変更ができるし、してみたい”と考える傾向であることが分かった。

市内観光の公共交通利用促進につながる観光パンフレットは、今回得られた情報を考慮する他に公共交通の利用しやすさ・公共交通と観光地との連携をさらに向上させる必要があると考えられる。

**参考文献**

1）国土交通省 HP，モビリティ・ マネジメントに関するパンフレット，http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/MobilityManagement/mm.pdf
2）松江市における高齢者を対象としたモビリティマネジメント，田中寛敬・淺田純作・蒲生康介・岩佐卓弥，第 63 回土木学会中国支部研究発表会概要集 IV